

静岡県富士山世界遺産センター 令和6年度特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山7

転回点

幕末から明治へ

— 移動する徳川家茂、和宮、明治天皇、
そして彼らのみた富士山 —



打掛（白輪子地菊菱七宝鏡文様）
伝和宮所用 徳川記念財団蔵



歌川国貞（二代）画「末広五十三次」のうち 日本橋（部分） 当センター蔵

令和6（2024）年 9/28[土]→11/4[月・祝]

開館時間／9:00～17:00（最終入場16:30） 休室日／令和6（2024）年10月15日（火・休館日）、10月16日（水）

観覧料／一般700円 団体600円、70歳以上200円、大学生等以下・障がい者 無料（証明書をご提示ください）

主催：静岡県富士山世界遺産センター 特別協力：公益財団法人徳川記念財団

※観覧料で常設展・シアターもご覧いただけます。



静岡県富士山世界遺産センター

文久3（1863）年十四代将軍徳川家茂は、将軍として三代家光以来229年ぶりの上洛を行う。沿道の民は家茂の姿を仰ぐことを許され、可視化された将軍の身体は、不特定多数を対象とした錦絵というメディアのなかで再生産されていく。

家茂の一連の上洛・西上をめぐる『末広五十三次』と『御上洛東海道』という大規模な揃物が出板されるとともに、三枚続も少なからず刊行され、画中には家茂自身の姿も描かれた。

『末広五十三次』の冒頭を飾る「日本橋」では、橋を渡る行列の背景に江戸城と富士山が配され、3羽の鶴が飛び交う。古来瑞鳥であった鶴は、三代家光治世下の寛永14（1637）年江戸城二の丸東照社建築予定地への飛来にみられるように東照大権現の化身とされた。富士山—江戸城—鶴の取り合わせは、家茂西上錦絵諸本で反復される。

一方、家茂の上洛に先立つ文久元（1861）年、仁孝天皇の皇女で孝明天皇の異母妹である和宮親王内親王（静寛院宮）は、中山道を通り江戸に下向、家茂に降嫁する。両者の婚儀については「和宮江戸下向絵巻」（東京都江戸東京博物館蔵）に記録されるとともに、公武合体の理想を可視化したような菊と葵をあしらった華麗な調度類も調進される。

しかしながら二人の婚儀に託された公武一和の夢も空しく、慶応2（1866）年7月、第二次長州征討を指揮するため滞っていた大坂城において家茂は病没する。そして翌慶応3（1867）年10月14日、家茂を継いだ十五代将軍徳川慶喜が大政を奉還すると、12月9日にはいわゆる「王政復古の大号令」が発せられ、260年余り続いた“徳川の平和”は幕を閉じる。

こうしたなか改元から間もない明治元（1868）年9月、明治天皇は江戸から名称を改めたばかりの東京へと旅立つ。関東の地に天皇が御幸するのは例のないことだった。

明治天皇の東幸（東京行幸）と5年前の徳川家茂上洛は、ともに東西を結ぶ大動脈東海道を舞台に数多の観衆を巻き込みつつ行われた政治劇であり、“少年王”を戴いた大行列である点も相通う。新旧政権にとって格好のプロパガンダとなった両事蹟については、錦絵という当時最も有効であった視覚メディアを通じ拡散され記憶されることとなる。

明治天皇東幸に取材した錦絵群も、ときに家茂西上錦絵の構図をそのまま借りながら、天皇の乗る鳳輦、東京城、鶴が合わせ描写される。富士山—江戸城—鶴からなる家茂西上錦絵以来の視覚イメージが交響し、徳川将軍を継ぐ聖なる王としての明治天皇とその治世が祝福されるのである。

シリーズ「江戸文化のなかの富士山」の第7回目となる本展では、徳川家茂の上洛、および明治天皇東幸関係の錦絵群や、和宮ゆかりの工芸品を展示し、幕末・明治の動乱期に国事を担った“若者”たちの“移動”が含意するポリティカルな意義に着目しつつ、歴史の転回点において富士山とその視覚イメージが担った象徴的な役割を確認する。



月岡芳年画「御上洛東海道」のうち
由比ヶ浜 個人蔵



歌川広重（二代）画 日本橋行烈 個人蔵



歌川広重（三代）画 東京日本橋勝景 明治神宮蔵

関連イベント

スペシャルトーク 転回点 幕末から明治へ

徳川家茂と和宮、彼らをとりにまく時代状況などについて、徳川宗家秘蔵のエピソードも交えながらお話しします。

令和6（2024）年10月6日（日）
13:30~14:30
富士宮駅前交流センター きらら
（富士宮市中央町5-7、0544-22-8111）

講師：



徳川家広

（徳川記念財団理事長 / 徳川宗家第19代当主）



松島 仁

（当センター教授 / 徳川記念財団特別研究員）

司会：



宮城嶋遙加

（俳優・静岡県舞台芸術センター（SPAC）所属）

撮影：山口一

※要事前予約（先着100名 / HPにてお知らせします）
※イベント終了後には、特別会場にて出演者による
ギャラリートークを行い、展示の見どころも解説します。
（15:00~16:00の間に2回、別途観覧券必要）

公開講座 富士山と幕末・明治の浮世絵

令和6（2024）年10月20日（日）
14:00~15:30

静岡県富士山世界遺産センター 1階研修室
※要事前予約

講師：庵原理絵子

（浮世絵研究者 / 学習院大学・中央大学等非常勤講師）

松島 仁

主な出品作（会期中展示替え・場面替えあり）

- 歌川派合作「末広五十三次」 徳川記念財団蔵（徳川家茂生母・実成院所持）
- 歌川派合作「御上洛東海道」 個人蔵
- 歌川広重（二代）画 日本橋行烈 個人蔵
- 和宮江戸下向絵巻 江戸東京博物館蔵
- 鶴澤探真筆「源氏物語 紅葉賀図屏風」 徳川記念財団蔵
- 女乗物ほか和宮所持離道具（黒塗牡丹唐草葵浮線菊紋敷袴絵） 徳川記念財団蔵
- 文台・硯箱ほか和宮婚儀調度（黒塗莖葉菊紋散花桐唐草蒔絵） 徳川記念財団蔵
- 小袖（浅葱縮緬地松竹梅桜菊干文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- 小袖（浅葱縮緬地松桜芦羽衣模様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- 打掛（白輪子地菊葵七宝繫文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- 打掛（白輪子地雲立涌菊折枝文様） 伝和宮所用 徳川記念財団蔵
- 伊勢物語かるた 和宮婚儀調度具 徳川記念財団蔵
- 円山応立筆 十二月花鳥図巻 徳川記念財団蔵（明治天皇より和宮への下賜品）
- 月岡芳年画 東京府中橋通街之図・其二東京府京橋之図・其三東京府銀座通街之図 神奈川県立歴史博物館蔵
- 歌川広重（三代）画 東京日本橋勝景 明治神宮蔵



静岡県富士山世界遺産センター

【アクセス】

新幹線 / 新富士駅からバスまたはタクシー約40分

電車 / JR身延線富士宮駅から徒歩8分

お車 / 新東名高速道路新富士ICから約10分・東名高速道路富士ICから約15分

※当センターには来館者用駐車場はありません。

（隣接の富士宮市神田川観光駐車場（有料）をご利用ください。）

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12

TEL 0544-21-3776 FAX 0544-23-6800

WEB <https://mtfuji-whc.jp>



撮影：平井広行

